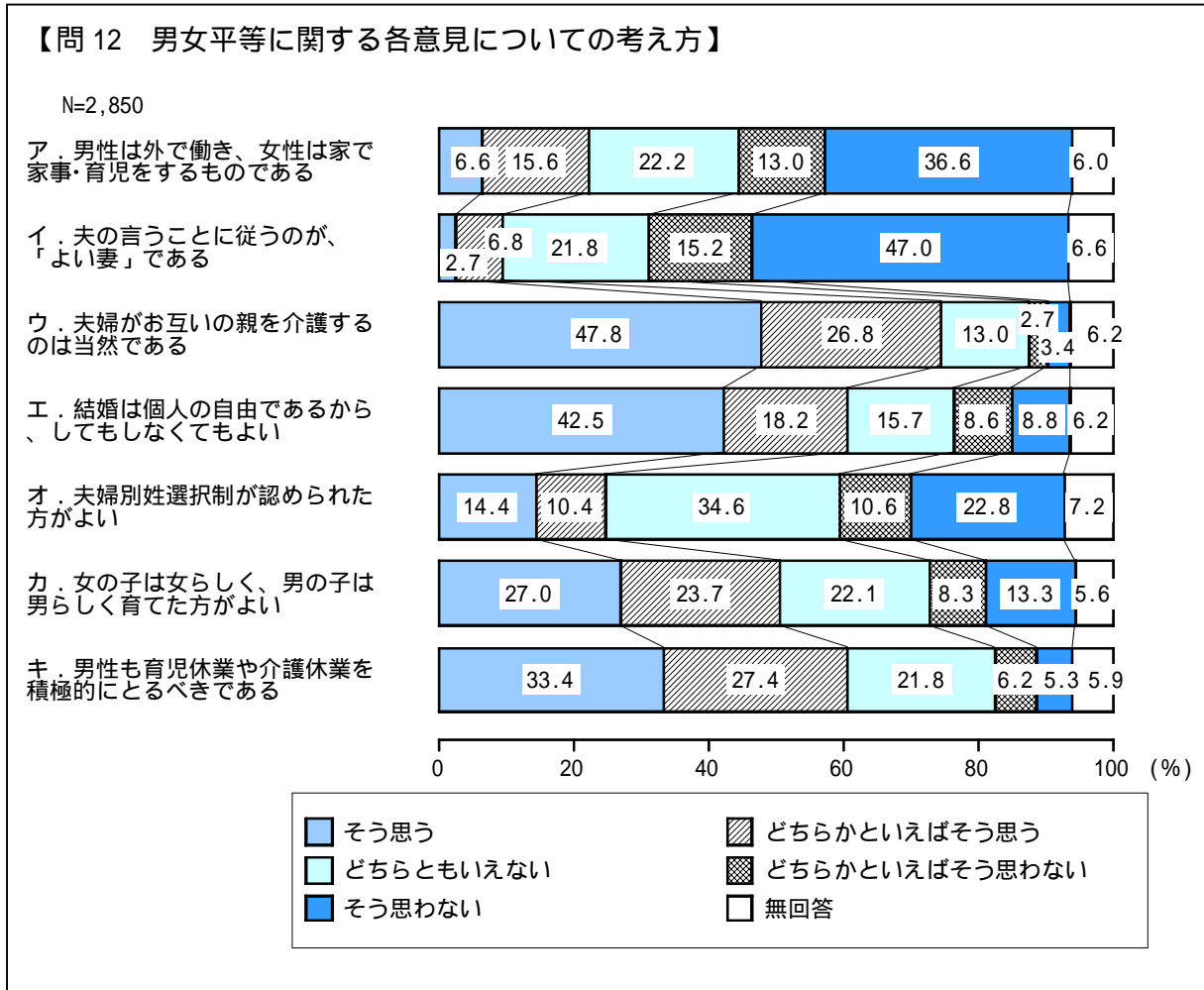


### 3 男女平等について

問 12 次のような意見について、あなたはどのように思いますか。

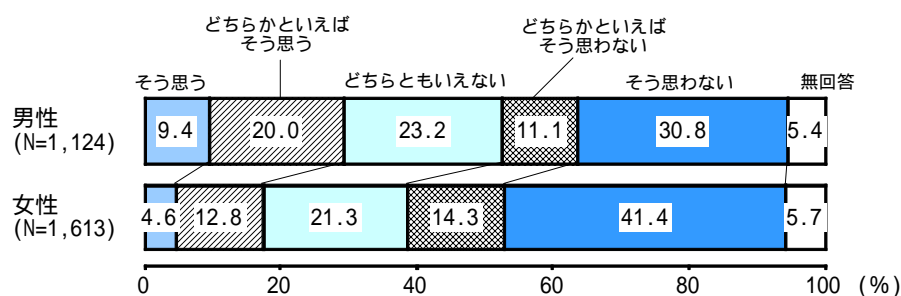
(ア～キのそれぞれについてあてはまるもの1つに )



男女平等に関する各意見についての考え方は、「ウ．夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」、「エ．結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」、「カ．女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」、「キ．男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」は「肯定派（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた層）」が「否定派（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた層）」よりも割合が高くなっている。

一方、「ア．男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」、「イ．夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」、「オ．夫婦別姓選択制が認められた方がよい」は、「肯定派」の割合よりも「否定派」の割合が高くなっている。

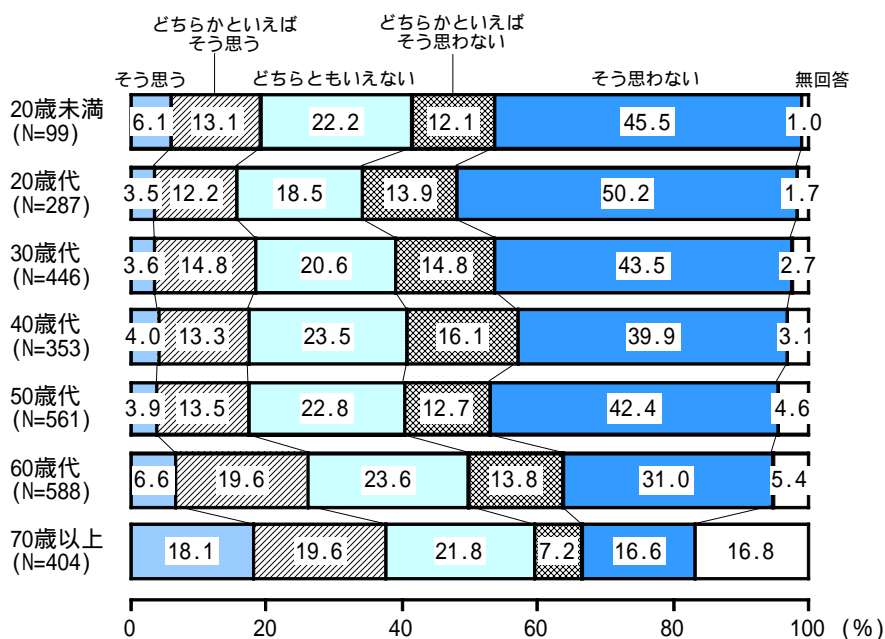
【問 12「ア．男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」（性別）】



「ア．男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」について、性別で見ると、「否定派」の割合は男性で 41.9%、女性で 55.7%と、女性が 13.8 ポイント高くなっている。そのうち、「そう思わない」は男性で 30.8%、女性で 41.4%と、女性が 10.6 ポイント高くなっている。

男性の方が女性よりも固定的な役割分担意識にとらわれている傾向があるといえる。

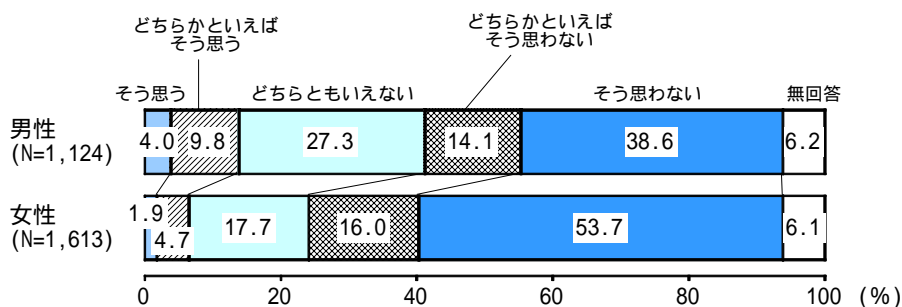
【問 12「ア．男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」（年代別）】



「ア．男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」について、年代別で見ると、「肯定派」の割合は 70 歳以上で 37.7%と最も高く、20 歳代で 15.7%と最も低くなっている。また、「否定派」の割合は 50 歳代以下で過半数を占めている。

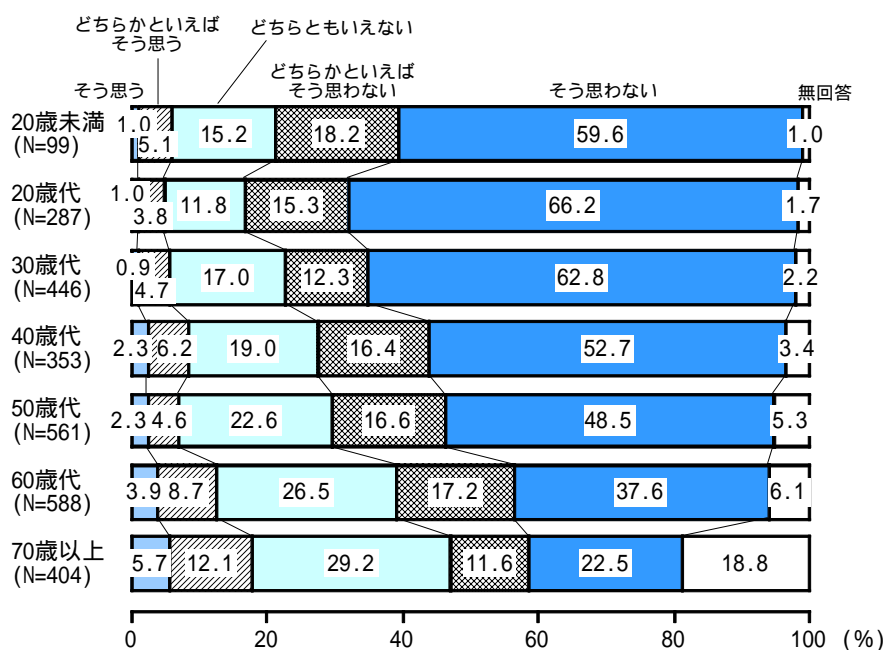
性別による役割分担意識については、特に若い世代では否定派の割合が高くなっている。

【問 12 「イ . 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」(性別)】



「イ . 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」について、性別で見ると、「男女ともに「否定派」の割合が過半数を占めているが、そのうち「そう思わない」は男性で38.6%、女性で53.7%と、女性が15.1ポイント高くなっている。また、「どちらともいえない」は男性で27.3%、女性で17.7%と、男性が9.6ポイント高くなっている。

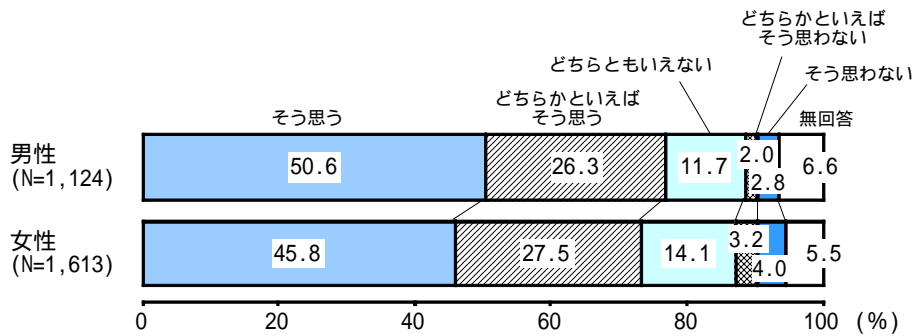
【問 12 「イ . 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」(年代別)】



「イ . 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」について、年代別で見ると、「否定派」の割合は20歳代で81.5%と最も高く、70歳以上で34.1%と最も低くなっており、20歳代を頂点に山型をなしている。「肯定派」の割合は70歳以上で約2割、20歳未満~50歳代では1割以下となっている。

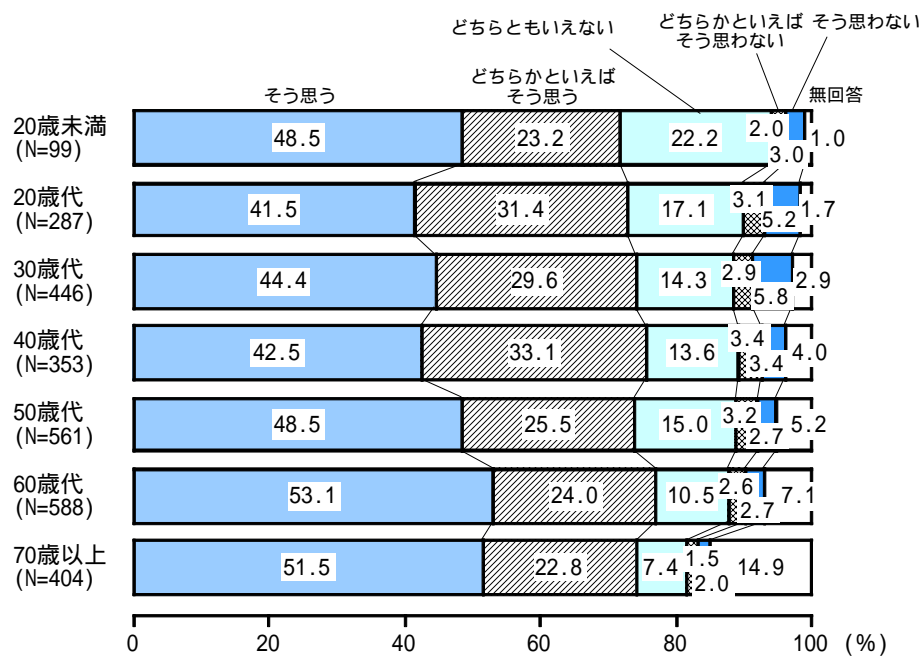
若い世代では、男女共同参画の意識が浸透してきており、否定的な意見が高くなっていると考えられる。

【問 12 「ウ．夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」（性別）】



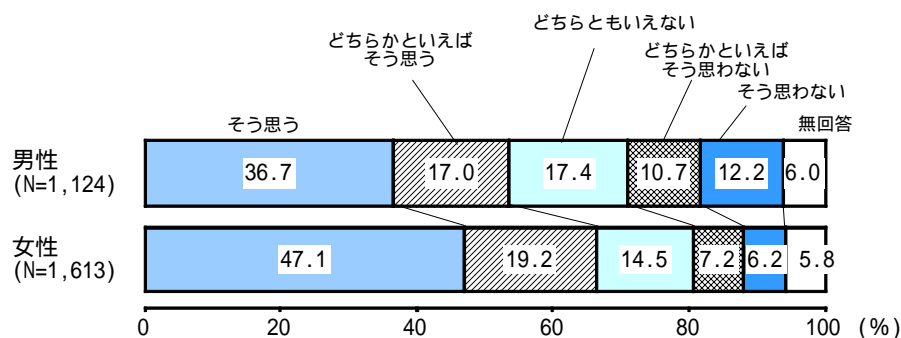
「ウ．夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」について、性別で見ると、男女ともに「肯定派」の割合が高く、男性で76.9%、女性で73.3%になっている。

【問 12 「ウ．夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」（年代別）】



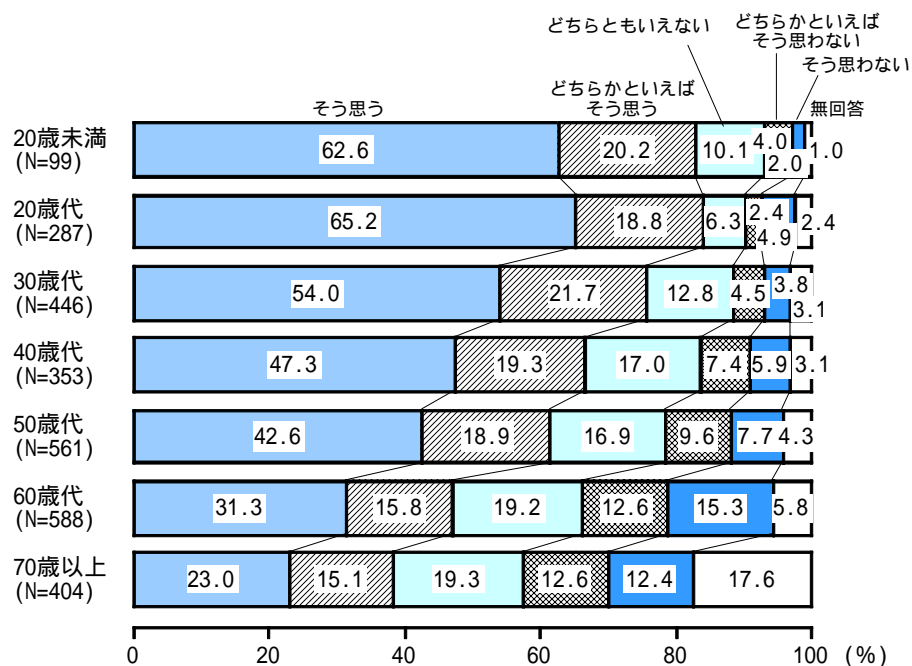
「ウ．夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」について、年代別で見ると、「肯定派」は年代に関わらず7割以上となっており、「否定派」は1割以下となっている。

【問 12 「エ．結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」（性別）】



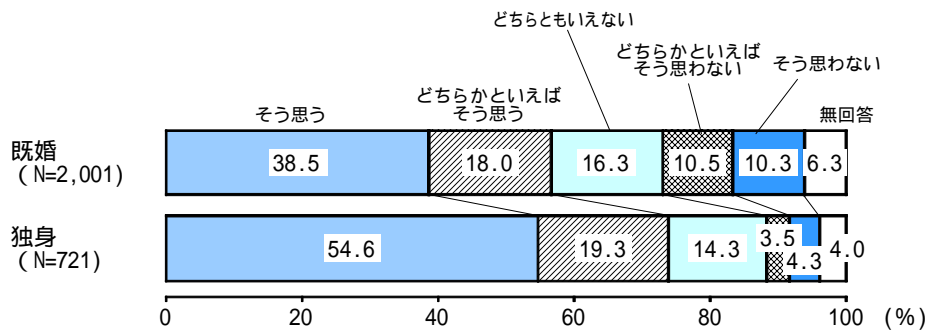
「エ．結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」について、性別でみると、「肯定派」は男性で 53.7%、女性で 66.3%と、女性が 12.6 ポイント高くなっている。また、「否定派」は男性で 2 割を超えている。

【問 12 「エ．結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」（年代別）】



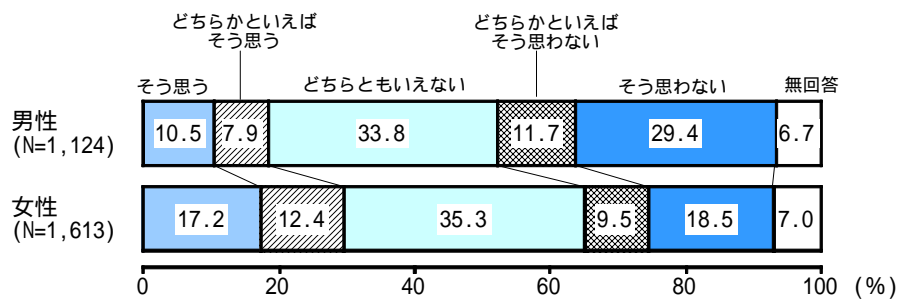
「エ．結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」について、年代別でみると、「肯定派」の割合は 20 歳代で 84.0%と最も高く、70 歳以上で 38.1%と最も低くなっており、年代が上るにつれて低くなっている。20 歳未満～50 歳代では「肯定派」の割合が過半数を占め、「否定派」は 20 歳未満～30 歳代では 1 割以下と極めて低い割合となっている。

【問 12「エ．結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」（既婚・独身別）】



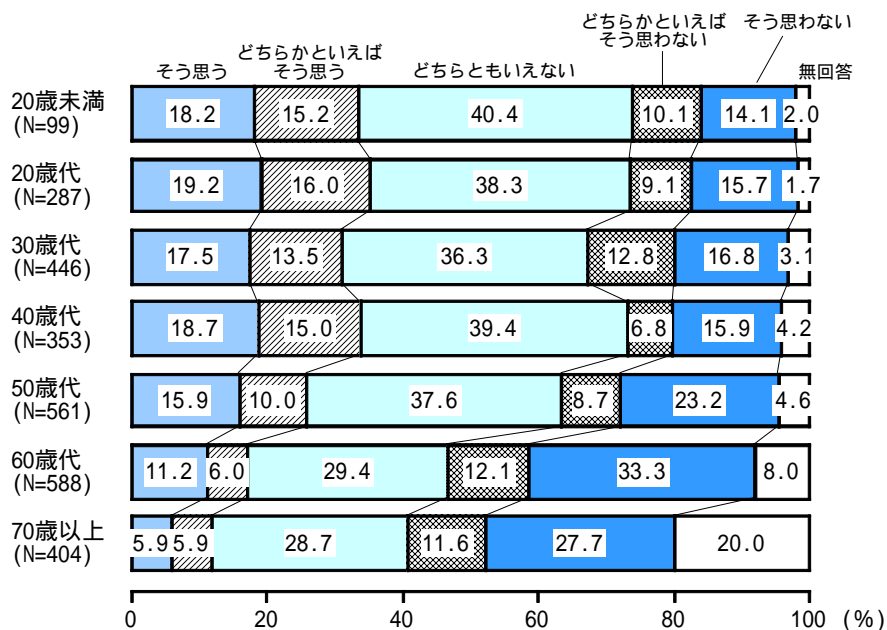
「エ．結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」について、既婚・独身別でみると、「肯定派」の割合は既婚・独身の人もともに過半数を占め、そのうち「そう思う」は既婚の人は38.5%、独身の人は54.6%と、独身の人が16.1ポイント高くなっている。また、「否定派」は既婚の人が2割を超えるのに対し、独身の人は1割に満たなかった。

【問 12「オ．夫婦別姓選択制が認められた方がよい」（性別）】



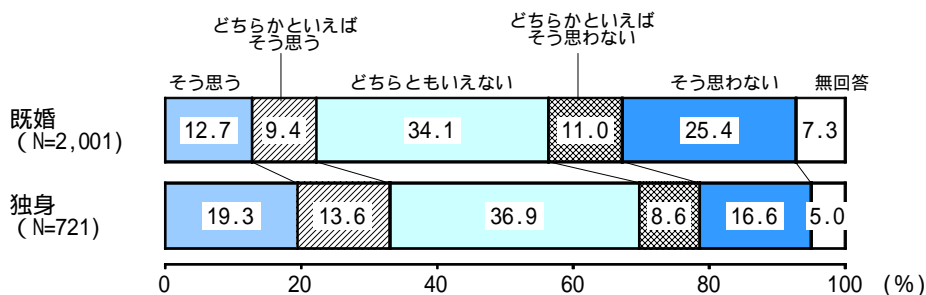
「オ．夫婦別姓選択制が認められた方がよい」について、性別でみると、「肯定派」の割合は男性で18.4%、女性で29.6%と、女性が11.2ポイント高くなっている。また、「そう思わない」の割合は男性で29.4%、女性で18.5%と、男性が10.9ポイント高くなっている。男性の方が夫婦別姓選択制に対して否定的な考え方を持っている傾向がある。

【問 12 「オ．夫婦別姓選択制が認められた方がよい」（年代別）】



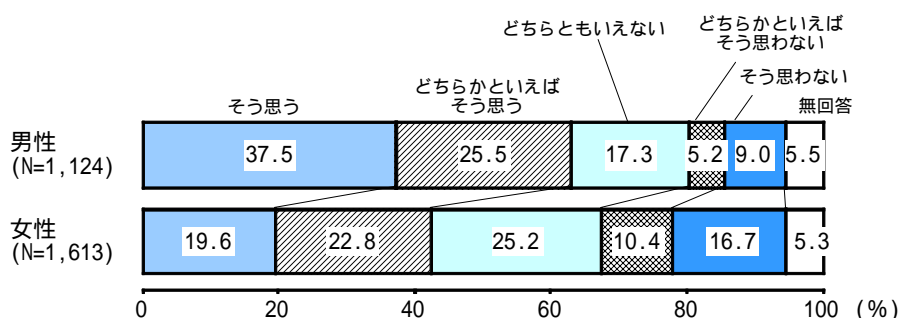
「オ．夫婦別姓選択制が認められた方がよい」について、年代別でみると、「否定派」の割合は60歳代で45.4%と最も高く、40歳代で22.7%と最も低くなっている。また、20歳未満～40歳代では「肯定派」の割合が「否定派」の割合より高くなっており、若い世代では夫婦別姓選択制に対して肯定的な考えを示している。

【問 12 「オ．夫婦別姓選択制が認められた方がよい」（既婚・独身別）】



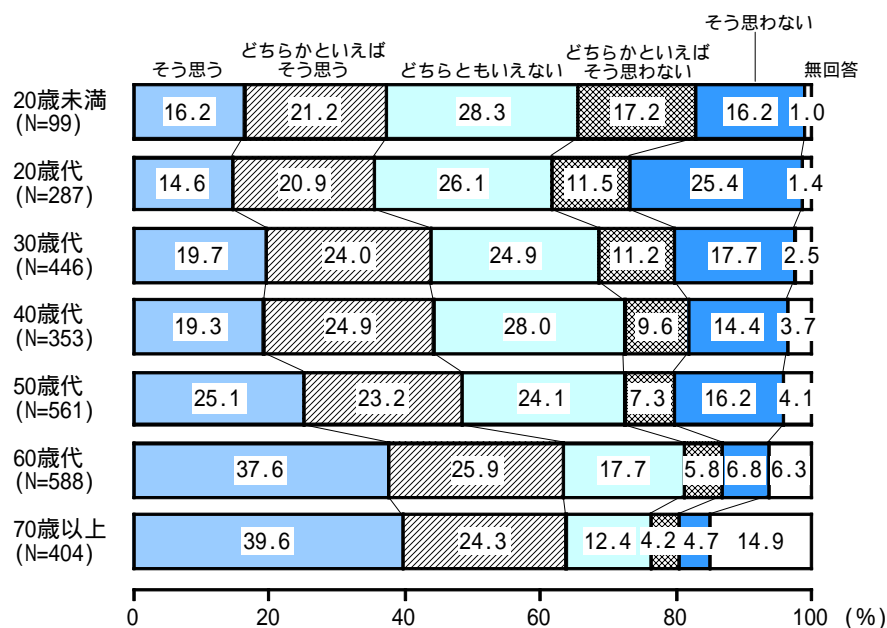
「オ．夫婦別姓選択制が認められた方がよい」について、既婚・独身別でみると、「肯定派」は既婚の人で22.1%、独身の人で32.9%と独身の人の方が10.8ポイント高くなっている。また、「否定派」は既婚の人で36.4%、独身の人で25.2%と既婚の人が11.2ポイント高くなっている。夫婦別姓選択制について、既婚は「否定派」、独身は「肯定派」の割合がそれぞれ高くなっている。

【問 12 「カ . 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」 (性別)】



「カ . 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」について、性別で見ると、「肯定派」は男性で 63.0%、女性で 42.4% となっており、そのうち「そう思う」は男性 37.5%、女性 19.6% と男性が 17.9 ポイント高くなっている。男女ともに「肯定派」の割合の方が「否定派」の割合に比べて高くなっているが、男性の方が女性に比べて固定的な役割分担意識が強い傾向にあるといえる。

【問 12 「カ . 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」 (年代別)】

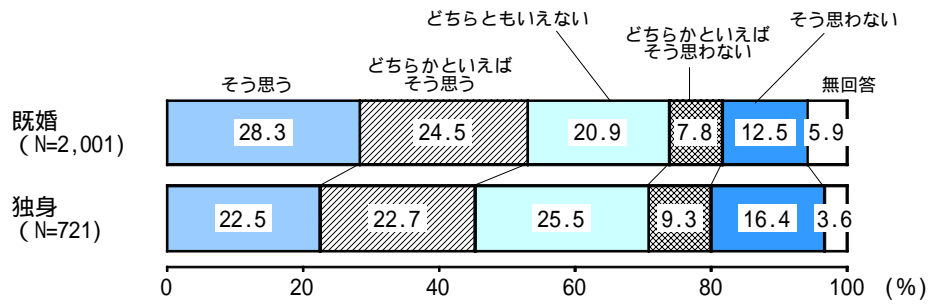


「カ . 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」について、年代別で見ると、「肯定派」の割合は 70 歳以上で 63.9% と最も高く、20 歳代で 35.5% と最も低くなっている。「否定派」の割合は 20 歳代で 36.9% と最も高く、70 歳以上で 8.9% と最も低くなっており、20 歳代以上は加齢とともに低くなっている。

高齢になるほど、性別による役割分担意識を根強く持っていることを示している。

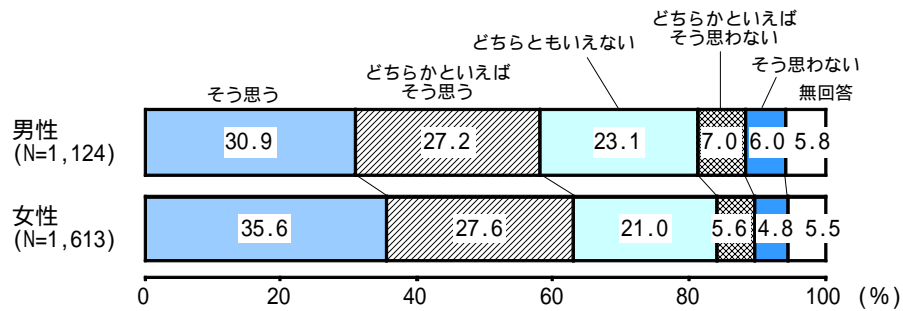


【問 12「カ．女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」（既婚・独身別）】



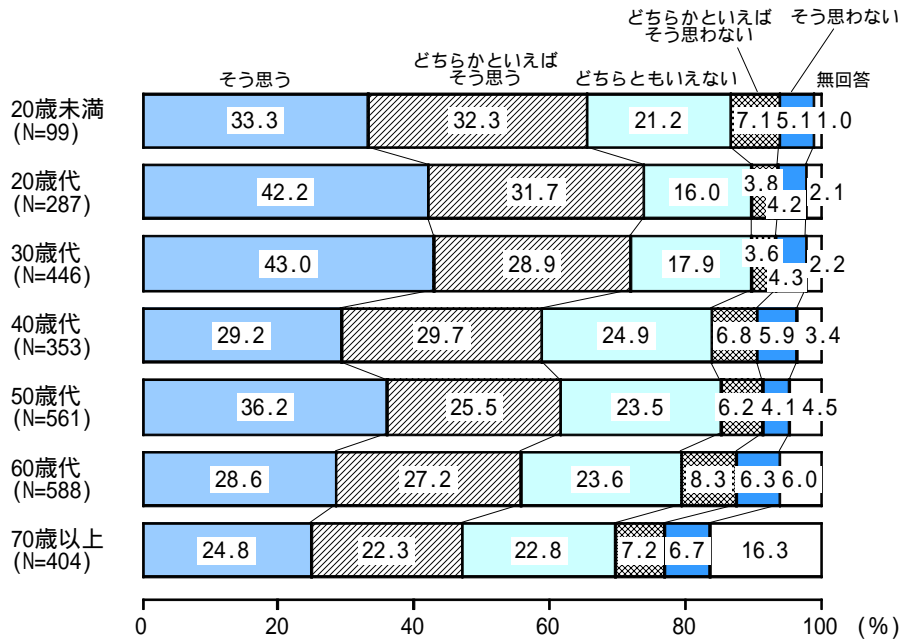
問 12「(カ)女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」について、既婚・独身別でみると、「肯定派」の割合は既婚の人で 52.8%、独身の人で 45.2%と、既婚の人が 7.6 ポイント高くなっている。

【問 12「キ．男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」（性別）】



「キ．男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」について、性別でみると、「肯定派」の割合は男女ともに過半数を占めているが、男性で 58.1%、女性で 63.2%と、女性の方が 5.1 ポイント高くなっている。

【問 12 「キ．男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」（年代別）】

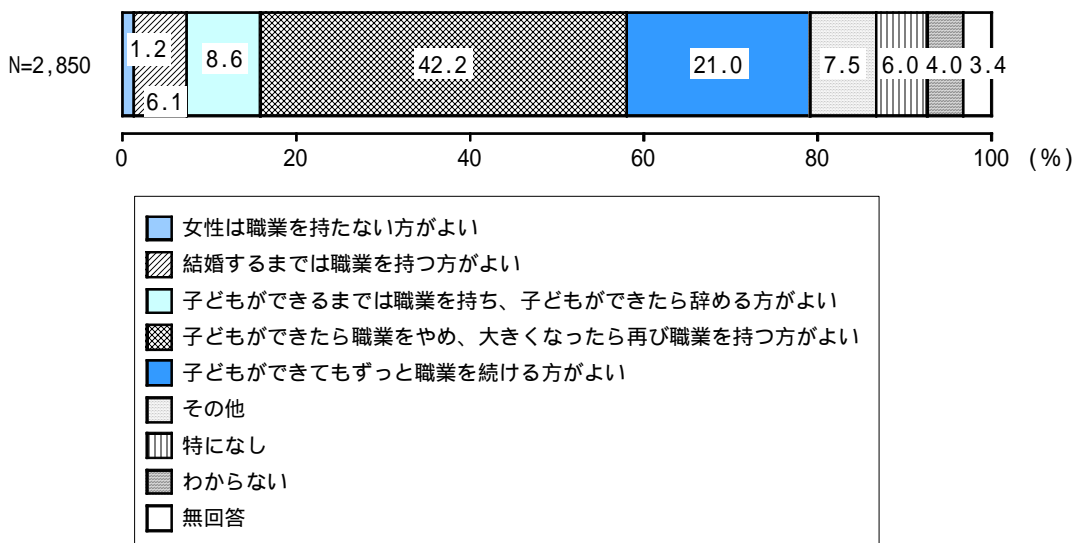


「キ．男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」について、性別でみると、すべての年代で「肯定派」の割合は高くなっているが、特に20歳代と30歳代においては7割以上となっており非常に高くなっている。

問 13 あなたは、女性が職業を持つことについてどのように思われますか。

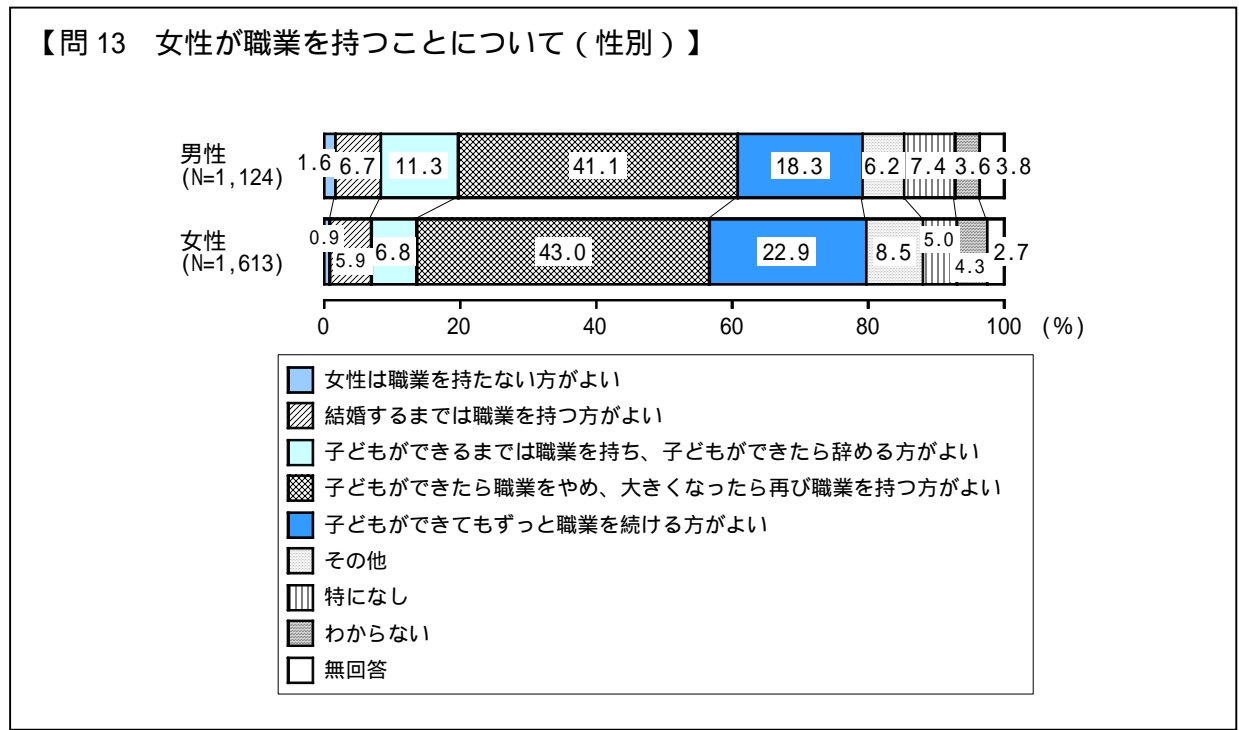
(あてはまるもの1つに)

【問 13 女性が職業を持つことについて】



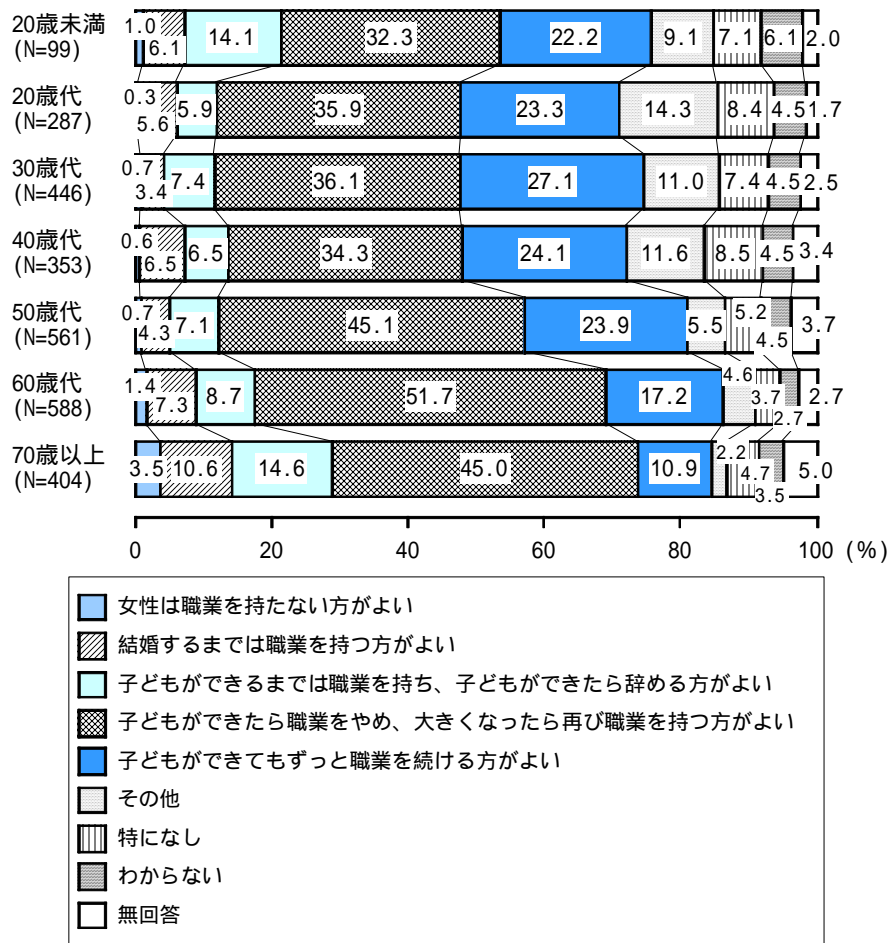
女性が職業を持つことについては、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職

業を持つ方がよい」(42.2%)が最も高く、「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」(21.0%)となっている。女性が職業を持つ方がよいという意見が6割以上となっているが、結婚や出産を機に仕事を辞める方がよいという意見の割合が高くなっている。



女性が職業を持つことについて、性別でみると、男女ともに「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(男性：41.1%、女性：43.0%)が最も高く、次いで「子どもができてもずっと職業を続ける方がよい」(男性：18.3%、女性：22.9%)となっている。

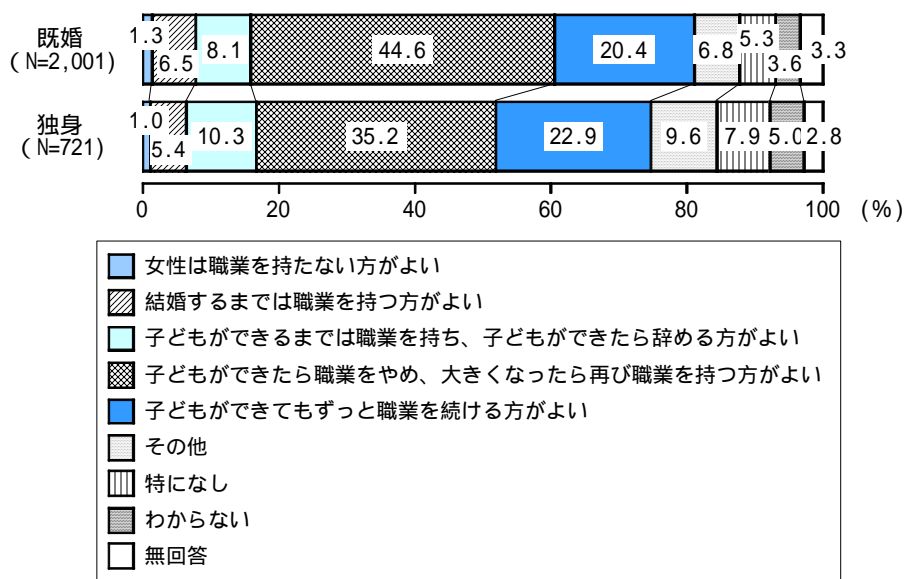
【問 13 女性が職業を持つことについて（年代別）】



女性が職業を持つことについて、年代別でみると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は加齢とともに高くなる傾向がみられる。逆に、「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」の割合は30歳代以上では加齢とともに低くなっている。「子どもができるまでは職業を持ち、子どもができたら辞める方がよい」の割合は20歳未満と70歳以上で若干高くなっている。

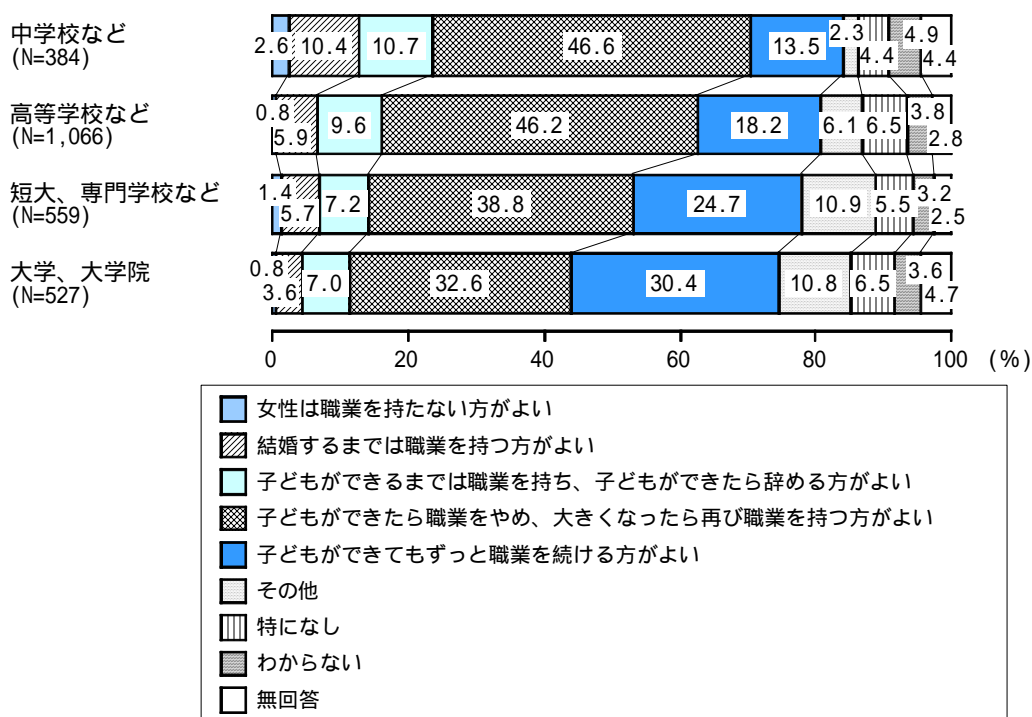
男女共同参画の意識が社会に浸透し、家事・育児は男女が家庭内で分担する意識が高まりつつあるが、ある程度の年代まで子どもを育てるのは母親がよいという意識がまだ根強く残っていることがうかがえる。

【問 13 女性が職業を持つことについて（既婚・独身別）】



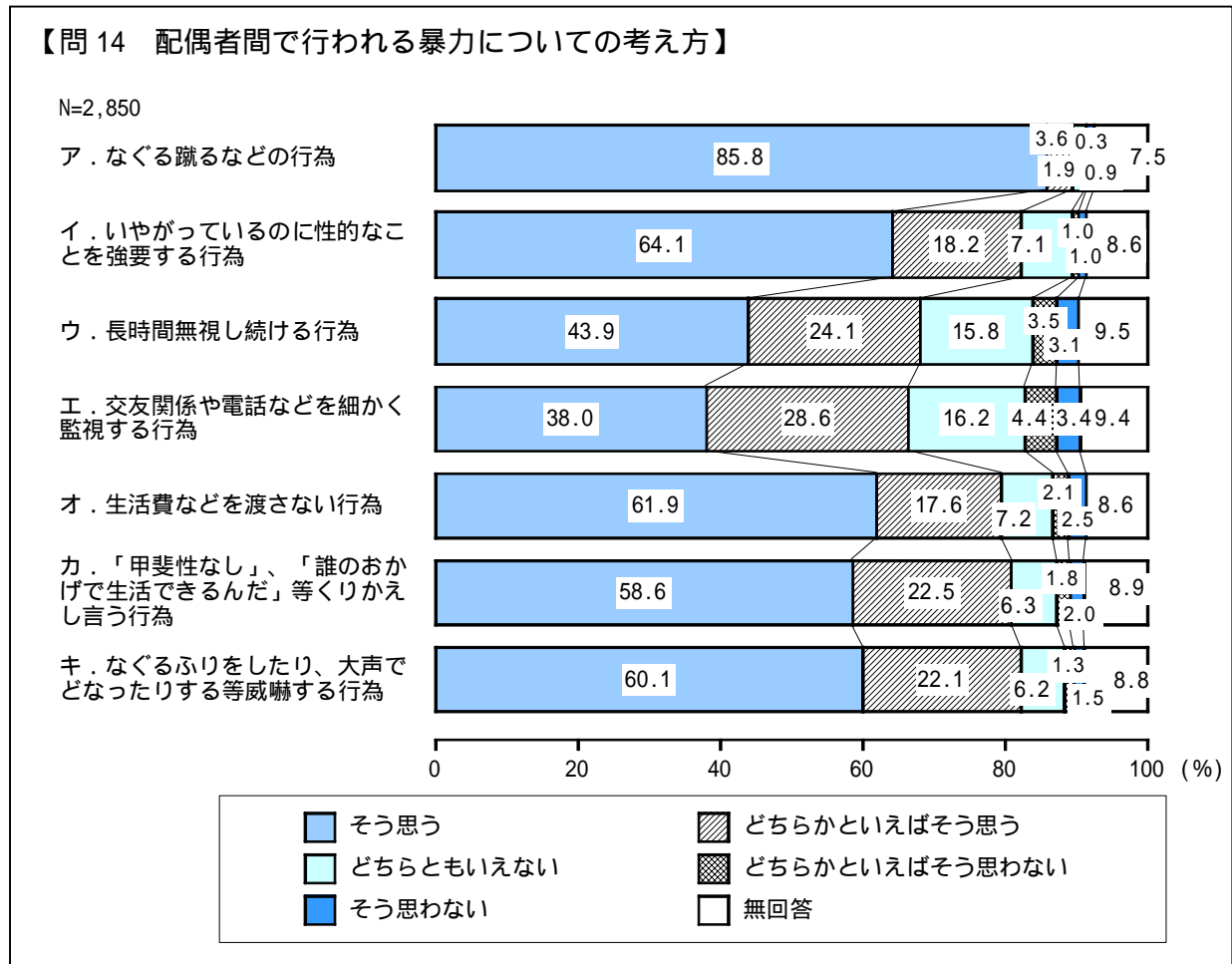
女性が職業を持つことについて、既婚・独身別でみると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は既婚の人で 44.6%、独身の人で 35.2%と、既婚の人が 9.4 ポイント高くなっている。

【問 13 女性が職業を持つことについて（最終学歴別）】



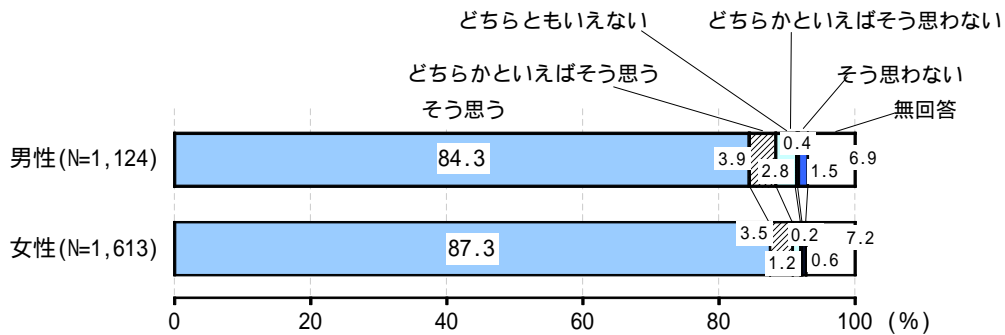
女性が職業を持つことについて、最終学歴別でみると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合は中学校などで46.6%と最も高く、大学、大学院で32.6%と最も低くなっており、高学歴になるほど低くなっている。一方、「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」は大学、大学院で30.4%と最も高く、中学校などで13.5%と最も低くなっており、高学歴になるほど高くなっている。

問 14 あなたは、次のような事柄が配偶者（事実婚・別居中を含む）間で行われた場合について、暴力だと思いますか。（ア～キのそれぞれについてあてはまるもの1つに ）



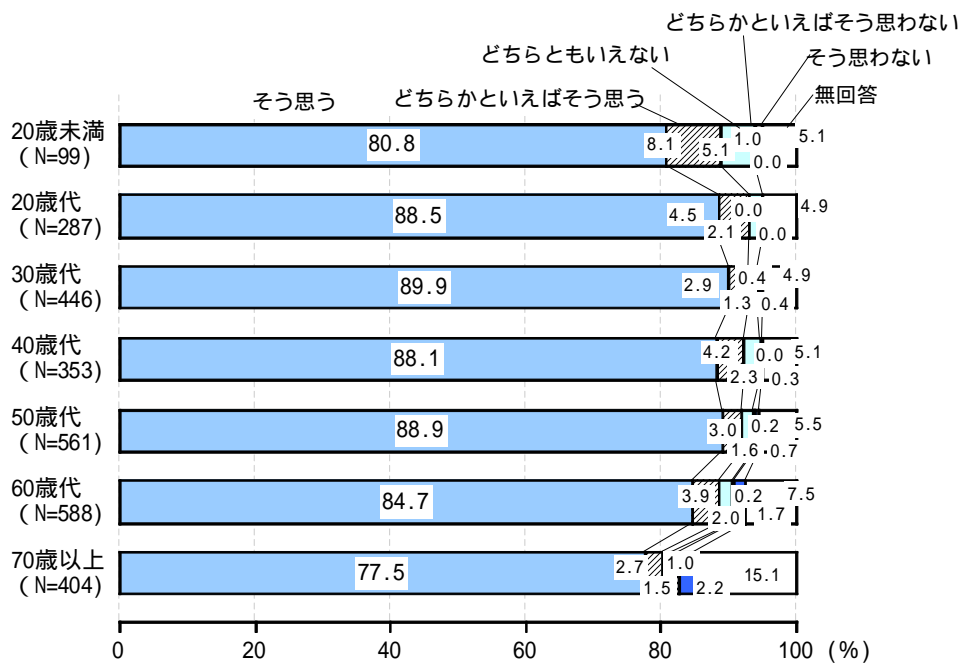
配偶者間で行われる暴力についての考え方は、すべての項目で「肯定派（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた層）」が「否定派（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた層）」よりも高くなっている。「否定派」はすべての項目で1割に満たず、配偶者といえども経済的・精神的・身体的・性的暴力は「暴力」として認識されていることがうかがえる。

【問 14 「ア．なぐる蹴るなどの行為」(性別)】



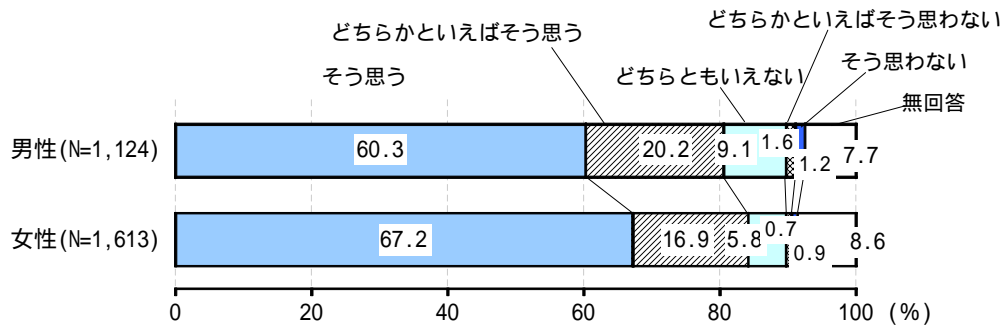
「ア．なぐる蹴るなどの行為」について、性別で見ると男女ともにそのような行為は暴力であるという意見が8割以上となっている。

【問 14 「ア．なぐる蹴るなどの行為」(年代別)】



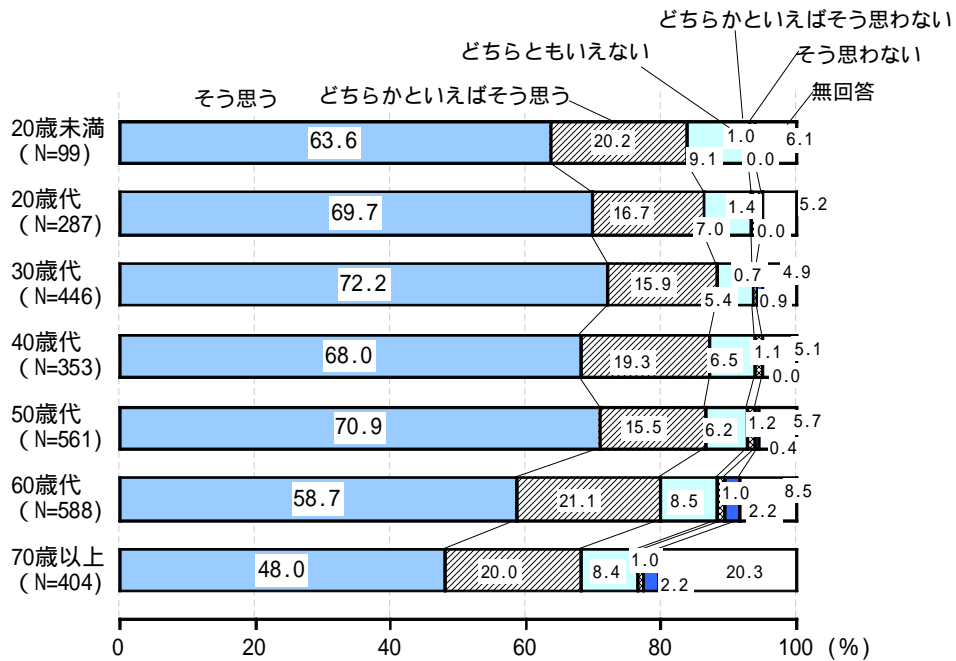
「ア．なぐる蹴るなどの行為」について、年代別で見るとすべての年代でそのような行為は暴力であるという意見が8割以上となっている。

【問 14 「イ．いやがっているのに性的なことを強要する行為」（性別）】



「イ．いやがっているのに性的なことを強要する行為」について、性別で見ると、男女ともそのような行為は暴力であるという意見が8割以上となっている。

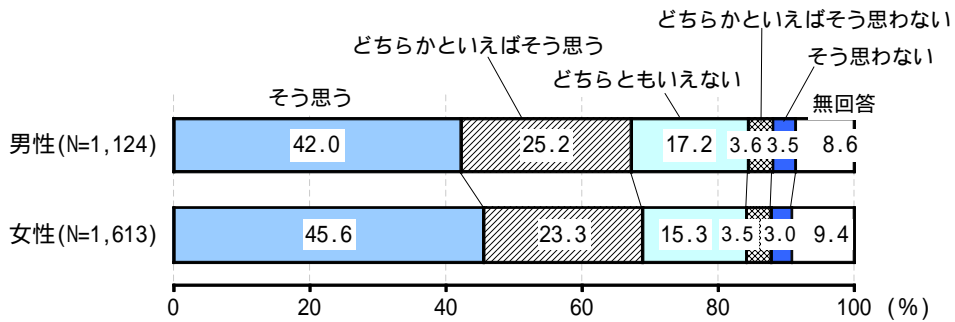
【問 14 「イ．いやがっているのに性的なことを強要する行為」（年代別）】



「イ．いやがっているのに性的なことを強要する行為」について、年代別で見ると、60歳以上を除くすべての年代でそのような行為は暴力であるという意見が8割以上となっている。

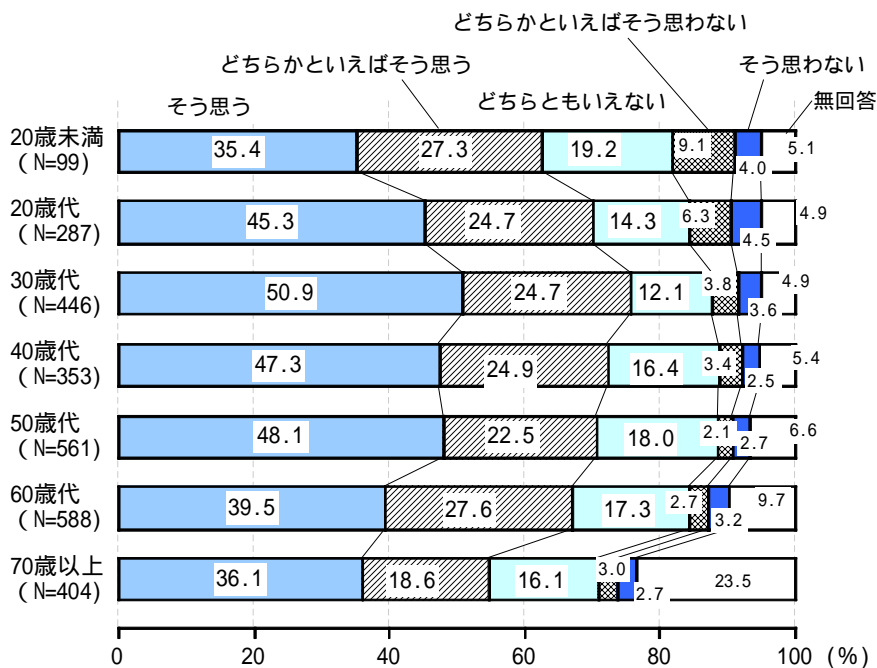


【問 14 「ウ．長時間無視し続ける行為」(性別)】



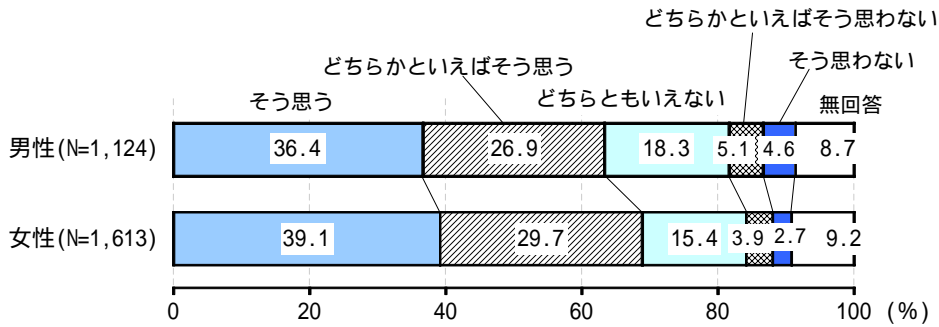
「ウ．長時間無視し続ける行為」について、性別で見ると、男女ともにそのような行為は暴力であるという意見が6割以上となっている。

【問 14 「ウ．長時間無視し続ける行為」(年代別)】



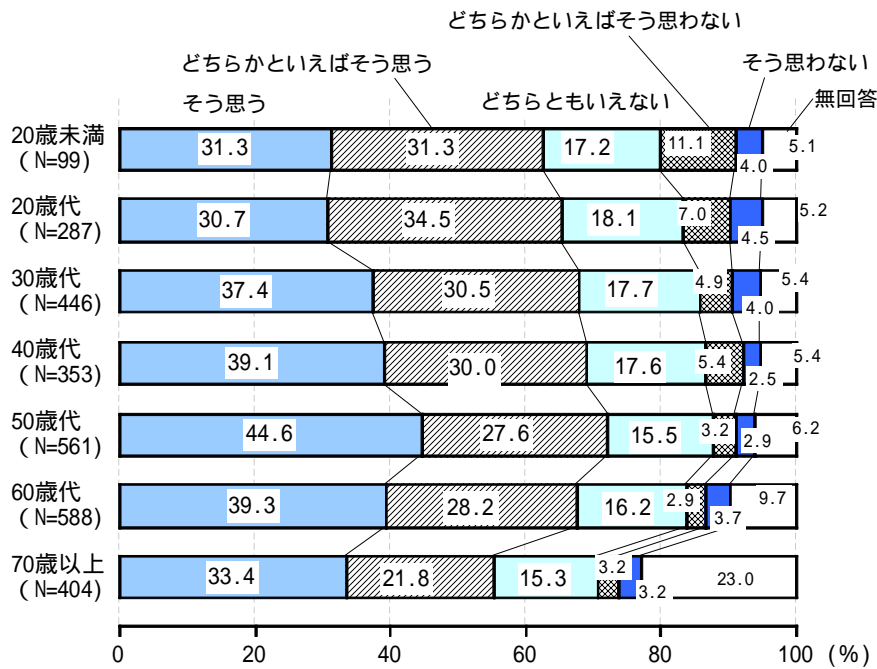
「ウ．長時間無視し続ける行為」について、年代別で見ると、そのような行為は暴力であるという意見が20歳代～50歳代では7割以上、20歳未満と60歳代では6割以上となっている。

【問 14 「エ．交友関係や電話などを細かく監視する行為」（性別）】



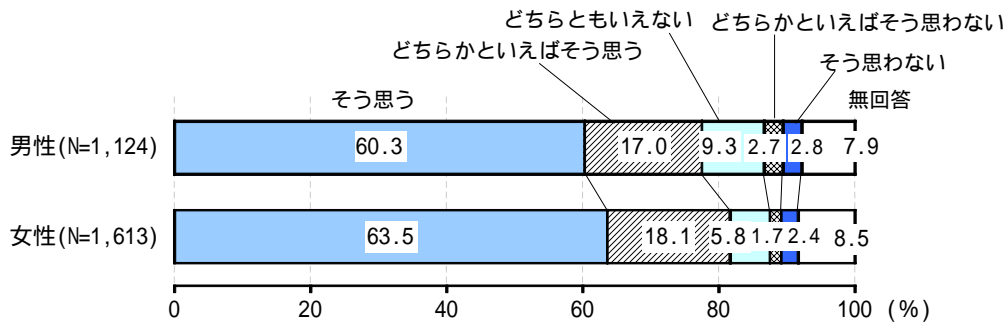
「エ．交友関係や電話などを細かく監視する行為」について、性別で見ると、男女ともにそのような行為は暴力であるという意見が6割以上を占めている。

【問 14 「エ．交友関係や電話などを細かく監視する行為」（年代別）】



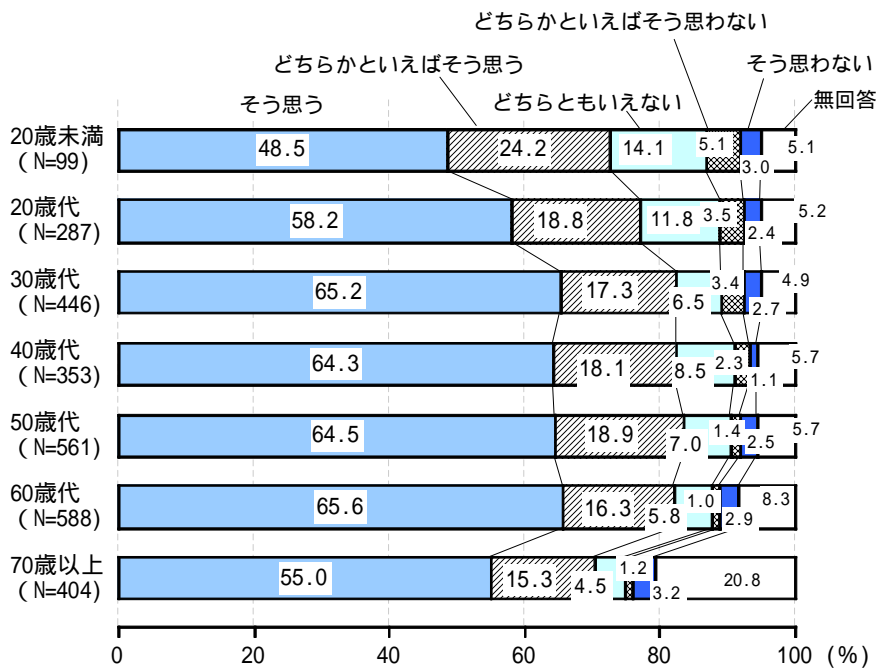
「エ．交友関係や電話などを細かく監視する行為」について、年代別で見ると、そのような行為は暴力であるという意見が70歳以上を除くすべての年代で6割以上を占めている。20歳未満と20歳代で暴力ではないという意見が1割を超えている。

【問 14 「オ．生活費などを渡さない行為」(性別)】



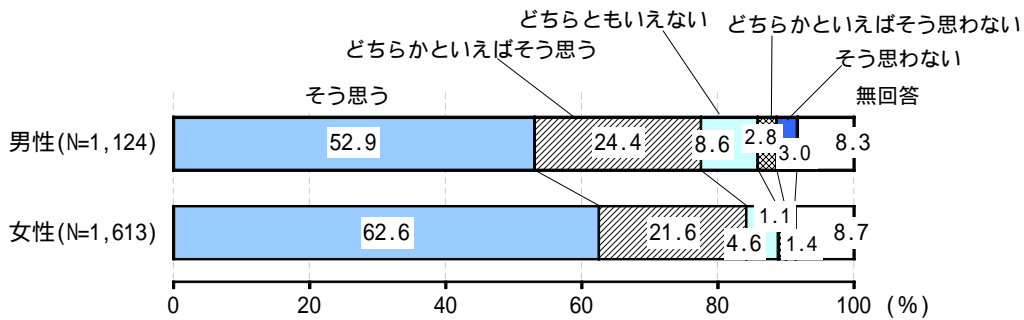
「オ．生活費などを渡さない行為」について、性別で見ると、そのような行為は暴力であるという意見が男女ともに7割以上となっている。

【問 14 「オ．生活費などを渡さない行為」(年代別)】



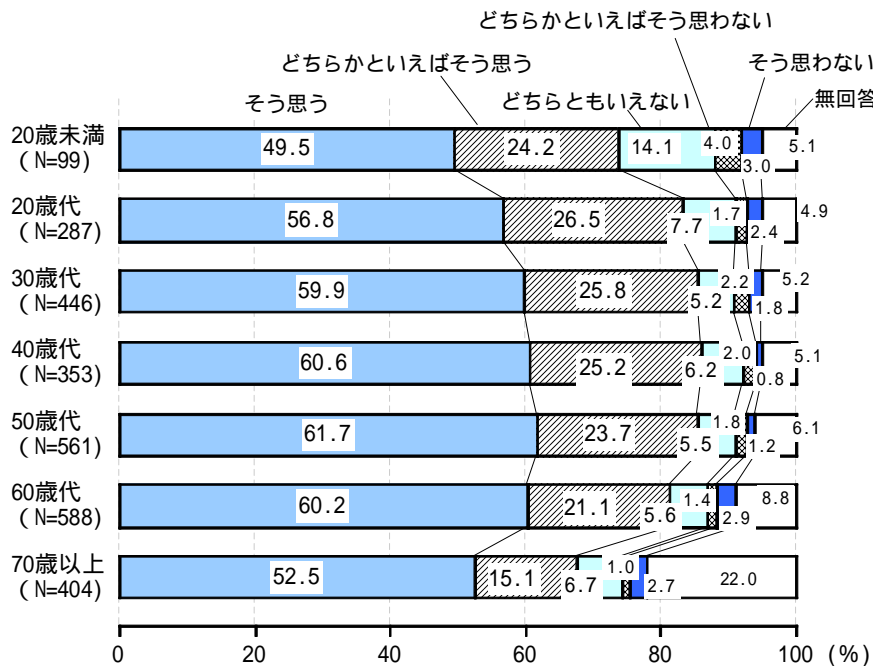
「オ．生活費などを渡さない行為」について、年代別で見ると、そのような行為は暴力であるという意見が30歳代～60歳代では8割以上となっている。

【問 14 「カ．「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為」  
（性別）】



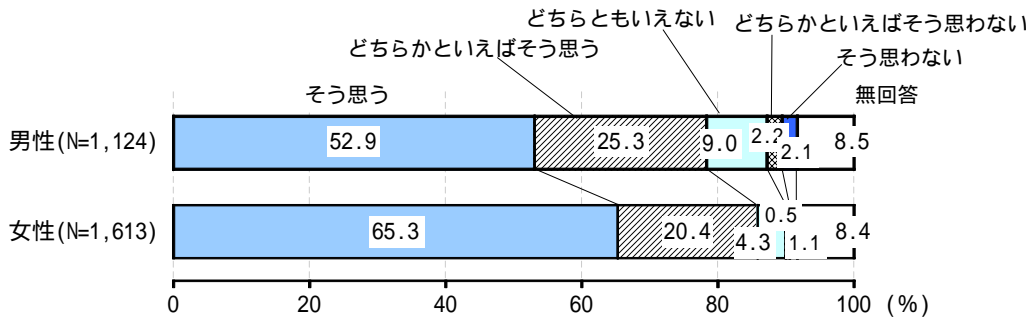
「カ．「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為」について、性別でみると、そのような行為は暴力であるという意見が、男性では77.3%、女性では84.2%となっており、女性の方が7ポイント程度高くなっている。

【問 14 「カ．「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為」  
（年代別）】



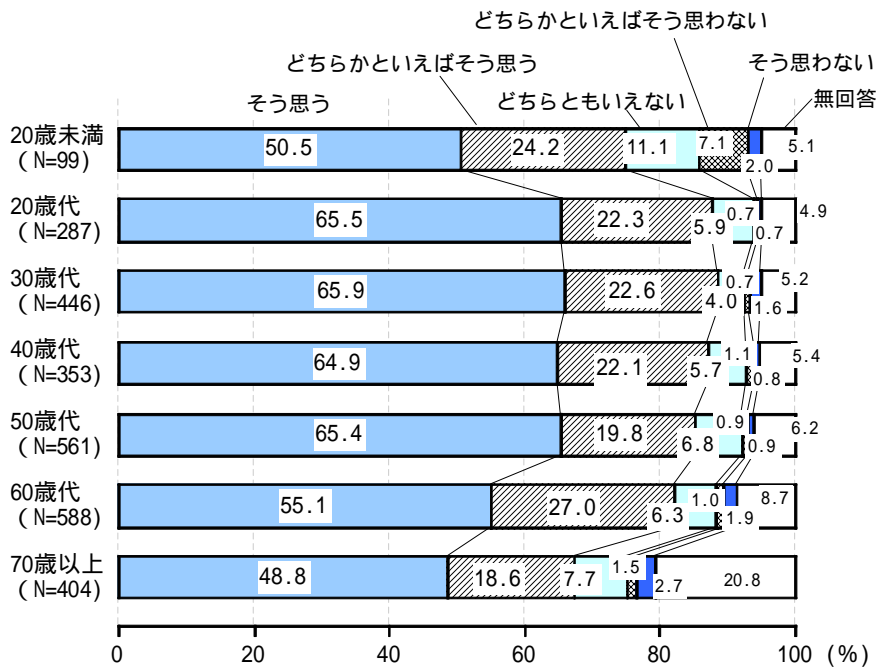
「カ．「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為」について、年代別でみると、そのような行為は暴力であるという意見が、20歳代～60歳代では8割以上となっている。

【問 14 「キ．なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為」(性別)】



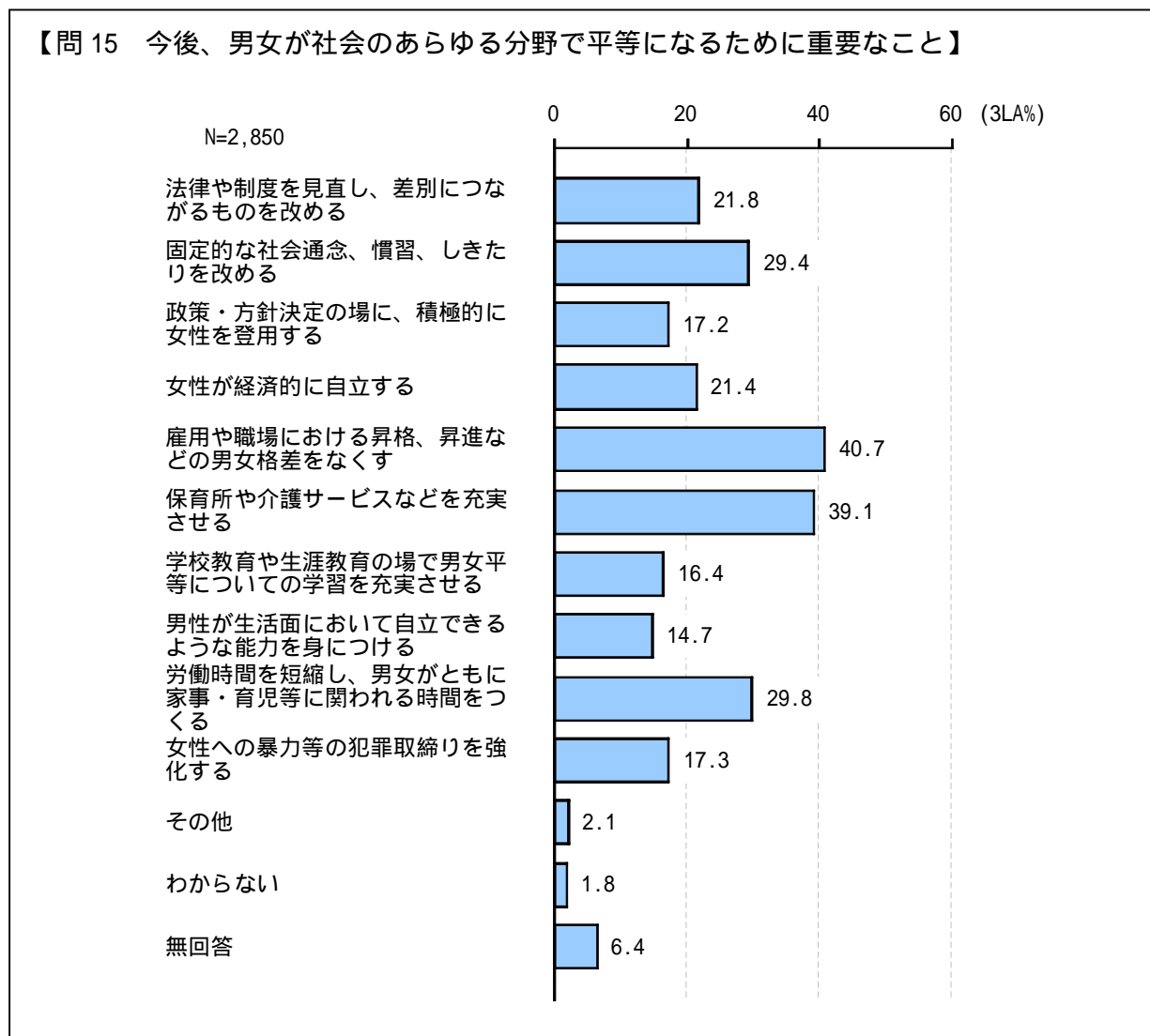
「キ．なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為」について、性別で見ると、そのような行為は暴力であるという意見が、男性では78.2%、女性では85.7%となっており、女性の方が7ポイント以上高くなっている。

【問 14 「キ．なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為」(年代別)】



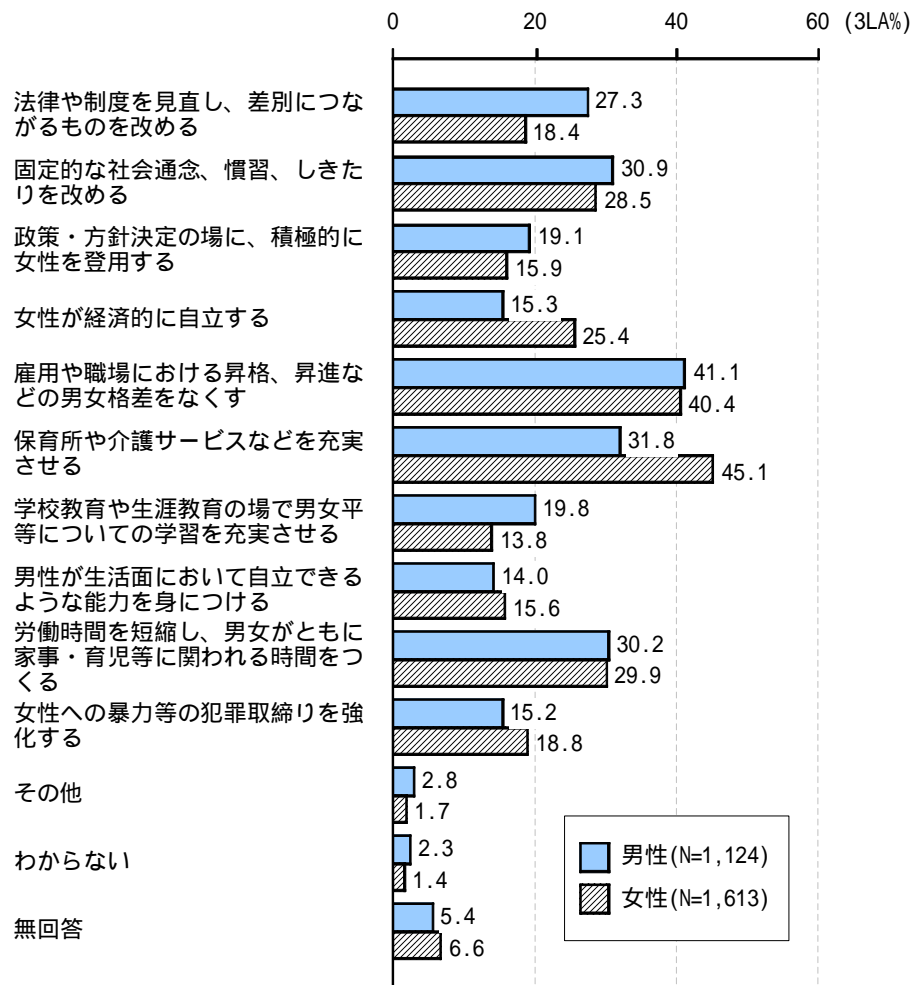
「キ．なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為」について、年代別で見ると、そのような行為は暴力であるという意見が、20歳代～60歳代では8割以上となっている。

問 15 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、特に重要と思われるものは何ですか。（3つまでに）



今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについては、「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」（40.7%）が最も高く、次いで「保育所や介護サービスなどを充実させる」（39.1%）、「労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関わる時間をつくる」（29.8%）、「固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」（29.4%）が高くなっている。

【問 15 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと（性別）】



今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについて、性別でみると、男性は「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」（41.1%）が最も高く、次いで「保育所や介護サービスなどを充実させる」（31.8%）、「固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」（30.9%）となっている。一方、女性は「保育所や介護サービスなどを充実させる」（45.1%）が最も高く、次いで「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」（40.4%）、「労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関われる時間をつくる」（29.9%）となっている。

また、「法律や制度を見直し、差別につながるものを改める」は、男性で27.3%、女性で18.4%と、男性の方が8.9ポイント高い。「女性が経済的に自立する」は男性で15.3%、女性で25.4%と、女性の方が10.1ポイント、「保育所や介護サービスなどを充実させる」は男性で31.8%、女性で45.1%と、女性が13.3ポイント高くなっている。女性の方が育児や介護へのニーズが高いことがうかがえる。

【問 15 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと（年代別）

(上段:回答者数/下段:回答比率)(3LA%)

|       | 全<br>体        | つ<br>法<br>な<br>が<br>や<br>る<br>制<br>も<br>度<br>の<br>を<br>見<br>改<br>直<br>め<br>し<br>る<br>差<br>別<br>に | き<br>固<br>た<br>定<br>り<br>的<br>な<br>改<br>め<br>会<br>る<br>通<br>念<br>、<br>慣<br>習<br>、<br>し | 的<br>政<br>に<br>策<br>女<br>・<br>性<br>方<br>を<br>針<br>登<br>決<br>用<br>定<br>す<br>の<br>場<br>に<br>、<br>積<br>極 | 女<br>性<br>が<br>経<br>済<br>的<br>に<br>自<br>立<br>す<br>る | 進<br>雇<br>な<br>用<br>ど<br>や<br>の<br>職<br>場<br>女<br>に<br>格<br>お<br>差<br>け<br>を<br>な<br>昇<br>格<br>す<br>昇 | 充<br>保<br>実<br>育<br>さ<br>所<br>せ<br>や<br>介<br>護<br>サ<br>ー<br>ビ<br>ス<br>な<br>ど<br>を | さ<br>女<br>学<br>せ<br>平<br>校<br>等<br>教<br>に<br>育<br>つ<br>や<br>い<br>生<br>涯<br>の<br>教<br>育<br>習<br>の<br>を<br>場<br>充<br>で<br>実<br>男 | き<br>男<br>る<br>性<br>よ<br>が<br>う<br>生<br>な<br>活<br>能<br>面<br>力<br>に<br>を<br>お<br>身<br>い<br>に<br>て<br>つ<br>自<br>け<br>立<br>る<br>で | 時<br>も<br>労<br>間<br>に<br>働<br>を<br>家<br>時<br>つ<br>事<br>間<br>く<br>・<br>を<br>る<br>育<br>短<br>児<br>縮<br>等<br>し<br>、<br>に<br>関<br>男<br>わ<br>女<br>れ<br>が<br>と | を<br>女<br>強<br>性<br>化<br>へ<br>す<br>の<br>暴<br>力<br>等<br>の<br>犯<br>罪<br>取<br>締<br>り | そ<br>の<br>他 | わ<br>か<br>ら<br>な<br>い | 無<br>回<br>答 |
|-------|---------------|--|--|---|---|---|---|--|--|---|---|-------------|-----------------------|-------------|
| 全 体   | 2850<br>100.0 | 620<br>21.8  | 838<br>29.4  | 489<br>17.2   | 609<br>21.4   | 1161<br>40.7  | 1115<br>39.1  | 468<br>16.4  | 420<br>14.7  | 850<br>29.8   | 492<br>17.3   | 59<br>2.1   | 50<br>1.8             | 183<br>6.4  |
| 20歳未満 | 99<br>100.0   | 17<br>17.2   | 26<br>26.3   | 14<br>14.1  | 17<br>17.2  | 52<br>52.5  | 24<br>24.2  | 18<br>18.2   | 19<br>19.2   | 26<br>26.3  | 17<br>17.2  | 3<br>3.0    | 3<br>3.0              | 5<br>5.1    |
| 20歳代  | 287<br>100.0  | 48<br>16.7   | 85<br>29.6   | 52<br>18.1  | 45<br>15.7  | 124<br>43.2   | 128<br>44.6   | 32<br>11.1   | 33<br>11.5   | 117<br>40.8   | 53<br>18.5  | 7<br>2.4    | 5<br>1.7              | 16<br>5.6   |
| 30歳代  | 446<br>100.0  | 75<br>16.8   | 108<br>24.2  | 57<br>12.8  | 84<br>18.8  | 204<br>45.7   | 225<br>50.4   | 46<br>10.3   | 59<br>13.2   | 200<br>44.8   | 85<br>19.1  | 8<br>1.8    | 6<br>1.3              | 22<br>4.9   |
| 40歳代  | 353<br>100.0  | 73<br>20.7   | 104<br>29.5  | 59<br>16.7  | 80<br>22.7  | 128<br>36.3   | 154<br>43.6   | 53<br>15.0   | 52<br>14.7   | 102<br>28.9   | 57<br>16.1  | 15<br>4.2   | 5<br>1.4              | 19<br>5.4   |
| 50歳代  | 561<br>100.0  | 122<br>21.7  | 167<br>29.8  | 102<br>18.2   | 146<br>26.0   | 228<br>40.6   | 223<br>39.8   | 88<br>15.7   | 80<br>14.3   | 156<br>27.8   | 89<br>15.9  | 16<br>2.9   | 15<br>2.7             | 34<br>6.1   |
| 60歳代  | 588<br>100.0  | 152<br>25.9  | 191<br>32.5  | 125<br>21.3   | 129<br>21.9   | 238<br>40.5   | 206<br>35.0   | 122<br>20.7  | 91<br>15.5   | 139<br>23.6   | 94<br>16.0  | 9<br>1.5    | 6<br>1.0              | 37<br>6.3   |
| 70歳以上 | 404<br>100.0  | 117<br>29.0  | 126<br>31.2  | 65<br>16.1  | 81<br>20.0  | 141<br>34.9   | 123<br>30.4   | 86<br>21.3   | 75<br>18.6   | 80<br>19.8  | 79<br>19.6  | 1<br>0.2    | 8<br>2.0              | 34<br>8.4   |

今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについて、年代別でみると、「法律や制度を見直し、差別につながるものを改める」では60歳以上、「女性が経済的に自立する」では40歳代以上、「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」では30歳代以下、「労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関われる時間をつくる」では20歳代と30歳代が他の年代に比べて高くなっている。

【問 15 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと（最終学歴別）

(上段:回答者数/下段:回答比率)(3LA%)

|           | 全<br>体        | つ<br>法<br>な<br>が<br>や<br>る<br>制<br>も<br>度<br>の<br>を<br>見<br>改<br>直<br>め<br>し<br>る<br>差<br>別<br>に | き<br>固<br>た<br>定<br>り<br>的<br>な<br>改<br>め<br>会<br>る<br>通<br>念<br>、<br>慣<br>習<br>、<br>し | 的<br>政<br>に<br>策<br>女<br>・<br>性<br>方<br>を<br>針<br>登<br>決<br>用<br>定<br>す<br>の<br>場<br>に<br>、<br>積<br>極 | 女<br>性<br>が<br>経<br>済<br>的<br>に<br>自<br>立<br>す<br>る | 進<br>雇<br>な<br>用<br>ど<br>や<br>の<br>職<br>場<br>女<br>に<br>格<br>お<br>差<br>け<br>を<br>な<br>昇<br>格<br>す<br>昇 | 充<br>保<br>実<br>育<br>さ<br>所<br>せ<br>や<br>介<br>護<br>サ<br>ー<br>ビ<br>ス<br>な<br>ど<br>を | さ<br>女<br>学<br>せ<br>平<br>校<br>等<br>教<br>に<br>育<br>つ<br>や<br>い<br>生<br>涯<br>の<br>教<br>育<br>習<br>の<br>を<br>場<br>充<br>で<br>実<br>男 | き<br>男<br>る<br>性<br>よ<br>が<br>う<br>生<br>な<br>活<br>能<br>面<br>力<br>に<br>を<br>お<br>身<br>い<br>に<br>て<br>つ<br>自<br>け<br>立<br>る<br>で | 時<br>も<br>労<br>間<br>に<br>働<br>を<br>家<br>時<br>つ<br>事<br>間<br>く<br>・<br>を<br>る<br>育<br>短<br>児<br>縮<br>等<br>し<br>、<br>に<br>関<br>男<br>わ<br>女<br>れ<br>が<br>と | を<br>女<br>強<br>性<br>化<br>へ<br>す<br>の<br>暴<br>力<br>等<br>の<br>犯<br>罪<br>取<br>締<br>り | そ<br>の<br>他 | わ<br>か<br>ら<br>な<br>い | 無<br>回<br>答 |
|-----------|---------------|--|--|---|---|---|---|--|--|---|---|-------------|-----------------------|-------------|
| 全 体       | 2850<br>100.0 | 620<br>21.8  | 838<br>29.4  | 489<br>17.2   | 609<br>21.4   | 1161<br>40.7  | 1115<br>39.1  | 468<br>16.4  | 420<br>14.7  | 850<br>29.8   | 492<br>17.3   | 59<br>2.1   | 50<br>1.8             | 183<br>6.4  |
| 中学校など     | 384<br>100.0  | 106<br>27.6  | 92<br>24.0   | 47<br>12.2  | 75<br>19.5  | 154<br>40.1   | 134<br>34.9   | 66<br>17.2   | 59<br>15.4   | 88<br>22.9  | 86<br>22.4  | 3<br>0.8    | 10<br>2.6             | 33<br>8.6   |
| 高等学校など    | 1066<br>100.0 | 240<br>22.5  | 323<br>30.3  | 211<br>19.8   | 226<br>21.2   | 463<br>43.4   | 401<br>37.6   | 171<br>16.0  | 159<br>14.9  | 303<br>28.4   | 191<br>17.9   | 17<br>1.6   | 17<br>1.6             | 55<br>5.2   |
| 短大 専門学校など | 559<br>100.0  | 91<br>16.3   | 146<br>26.1  | 92<br>16.5  | 114<br>20.4   | 215<br>38.5   | 256<br>45.8   | 75<br>13.4   | 81<br>14.5   | 204<br>36.5   | 87<br>15.6  | 16<br>2.9   | 10<br>1.8             | 47<br>8.4   |
| 大学 大学院    | 527<br>100.0  | 111<br>21.1  | 192<br>36.4  | 89<br>16.9  | 125<br>23.7   | 204<br>38.7   | 211<br>40.0   | 104<br>19.7  | 63<br>12.0   | 185<br>35.1   | 73<br>13.9  | 16<br>3.0   | 7<br>1.3              | 18<br>3.4   |



今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについて、最終学歴別で見ると、中学校などでは「法律や制度を見直し、差別につながるものを改める」（27.6%）が、短大、専門学校などでは「保育所や介護サービスなどを充実させる」（45.8%）、大学、大学院では「固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」（36.4%）、短大、専門学校など、大学、大学院では「労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関われる時間をつくる」（短大、専門学校など：36.5%、大学、大学院：35.1%）が他の学歴に比べて高くなっている。